

設計課題 貸事務所ビル

計画の要点等

問題 1(建築計画)

建築計画について周辺環境に対し配慮したこと

敷地の北側にある総合病院に配慮し、施設の北面には大きな開口部(窓)を設けるのを避けた。それに加え、植栽による緩衝帯を設け、騒音やプライバシーに対して配慮することを考えました。

問題 2(建築計画)

建築計画についてゾーニング、動線の計画に配慮したこと

車いす使用者用の駐車場は、建築物のメイン出入口からの距離が短くなるよう配置した。貸展示室(2)は、利用者がエントランスを介し直接利用できるようにした。

問題 3(建築計画)

セキュリティ、防犯計画について配慮したこと

メイン出入口を管理人が施錠した後、夜間の人の出入は管理事務室前の廊下を通して、サービス出入口を利用しなければならないようにした。

問題 4(建築計画)

避難計画について配慮したこと

直通階段を南北に設け、2方向避難が可能な位置に計画した。2箇所の階段とも1階～2階の階高は5300mmとし、1周半まわる計画とした。バリアフリー法にも適応した階段である。

問題 5(構造計画)

構造計画について採用した構造種別とその理由

構造種別: 鉄骨鉄筋コンクリート造

耐久性、安全性を確保するとともに、貸展示室と貸事務室は無柱空間とするため、全階ともに柱スパン 7m×7m、7m×14m を採用した。

問題 6(構造計画)

耐力壁の配置について配慮した点

1 階についても、階段、便所は各階において同じ位置になるようにし、耐力壁の配置についても階によりバラツキが無いように中央集約型とした。

問題 7(設備計画)

設備計画について採用した空調方式とその理由

個別の制御が必要な各室に空冷ヒートポンプパッケージ方式を採用した。室外機は屋上に配置するものとし、貸展示室及び貸事務室に冷媒用のパイプスペース(PS)を設けた。

問題 8(設備計画)

給排水衛生設備に特に配慮した点

給水方式には、水道直結増圧方式を採用した。各階の便所は、高齢者・障害者等が利用できる多機能便所を設けた。

問題 9(設備計画)

電気設備に特に配慮した点

貸事務室の床下地は、電話配線、LAN の構築、防犯設備等の配線確認が容易で、床から自由に取り出せるOAフロア $t=100$ を採用した。

問題 10(設備計画)

建築物の環境負荷低減について特に配慮したこと

最上階屋上には、植栽(低木)と芝をもちいて環境負荷低減を図った。外部に大きな開口部をもつ貸事務室は、複層ガラスを採用した。

試験場	受験番号	氏名
		建築士.com